

平成19～21年度エコインストラクター人材育成研修

概要

ご紹介する「エコインストラクター人材育成研修」は、平成19年度から平成21年度まで行った環境省主催の人材育成事業です。環境省と自然学校・エコツアー事業者が連携し、今後の自然系ツーリズムを担う質の高い人材を育てようという画期的な取り組みです。



全国の受講生と一緒に、基礎的な知識を学ぶために2泊3日の講義を受け、第一線で活躍する講師陣と、全国の仲間と共に学習しました。



全国にある受け入れ団体にて、実地研修をおこないました。自然学校インストラクター、エコツアーガイドの「現場」を体験する絶好の機会となりました。



実地研修中には、業界の最新情報が盛り込まれたテキストにて知識を習得しました。その後、レポートを提出し、理解を深めました。



実地研修、通信教育、そして中間試験、修了試験を経て、エコインストラクター人材育成研修の修了が認定されました。

目次

エコインストラクター人材育成事業

- ◆エコインストラクターとは
- ◆研修の内容 / ◆研修の実施体制

P 1 ~ P 4

Pick Up

- ◆写真で見る実地研修

P 9

◆ 研修のスケジュール ◆



P 5 ~ P 6

P 7

P 8

P 9

P 10

P 10

研修に関する詳細事項

P 11 ~ P 14



質問 エコインストラクターって何ですか？

「エコインストラクター人材育成研修」は、平成 19 年度から平成 21 年度まで実施された環境省主催の人材育成事業です。環境省と自然学校・エコツアー事業者が連携し、今後の自然系ツーリズムを担う質の高い人材を育てようという画期的な取り組みです。将来、自然学校のインストラクターやエコツアーガイドになりたい方、あるいは地方に住みながら自然と関係の深い産業に従事したいと考えている方には、ぜひ関心を持ち、受講いただきたい研修です。

この事業が生まれた背景

80 年代初頭、日本に自然学校が生まれ、90 年代初頭にはエコツーリズムの波が起きて、既に 25 年以上の歴史を刻んでいます。自然学校は『自然と人』『人と人』『人と社会』の関係を築き直す運動として始まり、エコツーリズムは『環境』と『観光』の両立を図ることで地域資源の保全や活性化に貢献する運動として迎えられてきました。

ともに、環境問題に向けられた人々の関心、健康的な生き方、地域の自然・文化資源の価値を見直すまなざしが、観光産業の新しい潮流とも連動して、確実に日本社会に根付きつつあります。

ところが、現場でこれらの活動を担う資質・能力を備えた人材は圧倒的に不足しており、十分に人材需要に応えられていない現状がある反面、就業の仕組みや機会が未整備なために研修を修了しても就業できない人が多い状況や、必要な資質・能力を蓄えていない事業者の起業も増えているなど、必ずしも現状は社会のニーズに応じていません。このような背景のもと、近年、地域の自然・文化を来訪者に体験的に伝え、

楽しく学ぶ機会を提供する質の高い人材の育成がとくに急務とされ、全国各地で人材育成が取り組まれてきました。

そして今、社会が求めているのは、単なる体験活動提供者、案内人ではありません。地域を動かすことの出来る産業と、その担い手なのです。

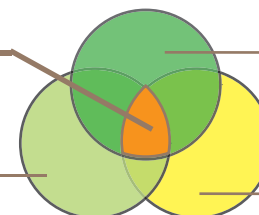
エコインストラクター人材育成事業は、そのためのアクションです。

エコインストラクター

エコツアーガイド

自然学校インストラクター

地域活動の担い手

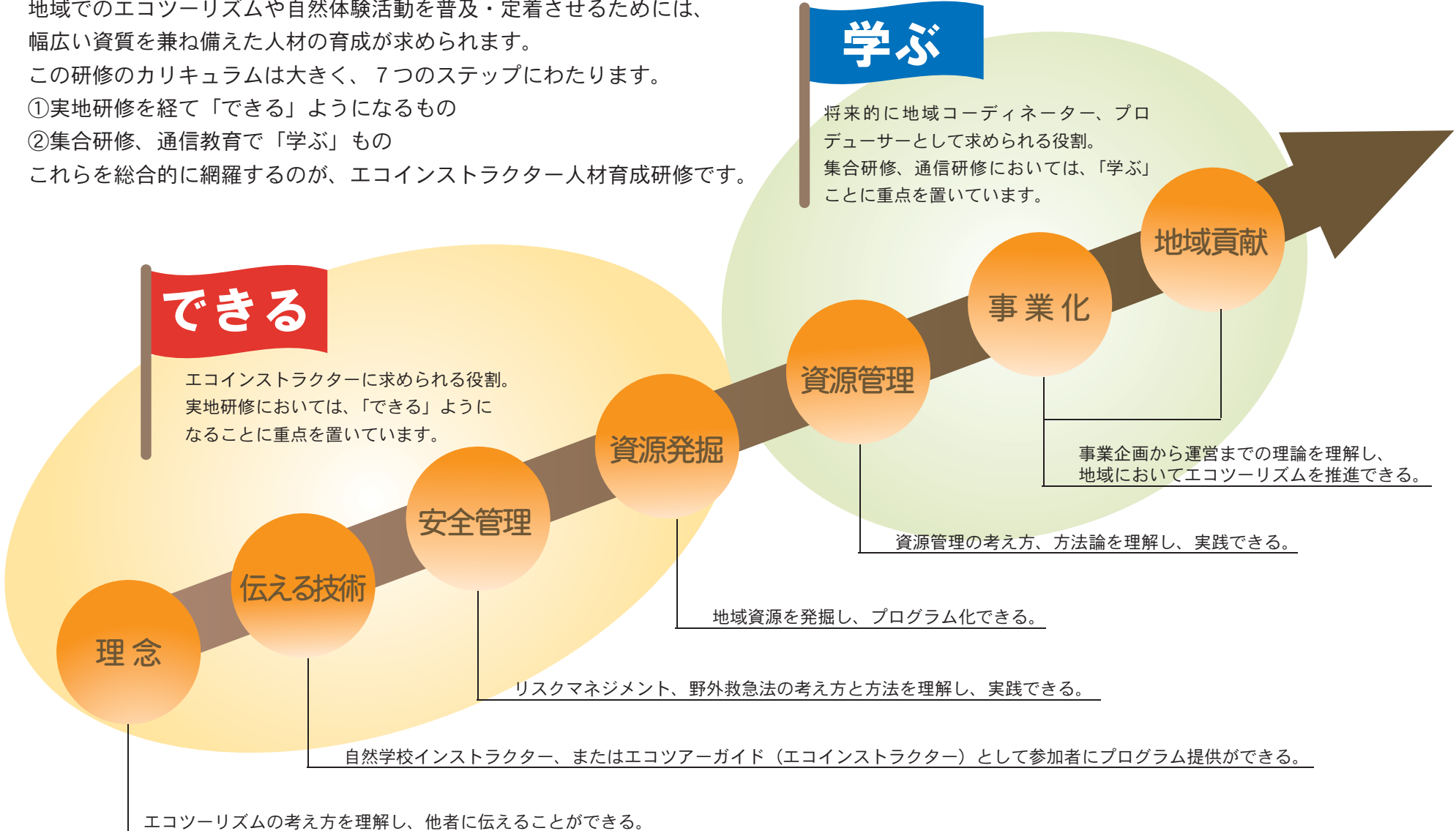


質問 どんなコトを学んだのですか？

地域でのエコツーリズムや自然体験活動を普及・定着させるためには、幅広い資質を兼ね備えた人材の育成が求められます。

この研修のカリキュラムは大きく、7つのステップにわたります。

- ① 実地研修を経て「できる」ようになるもの
 - ② 集合研修、通信教育で「学ぶ」もの
- これらを総合的に網羅するのが、エコインストラクター人材育成研修です。



研修の内容

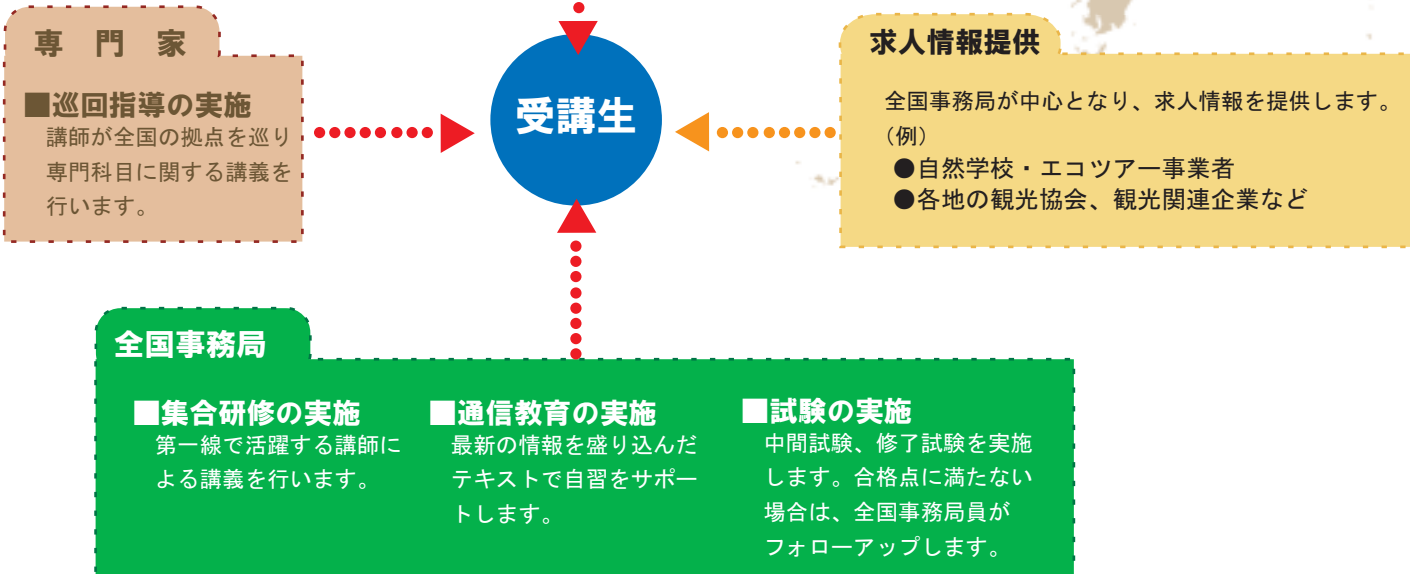
カテゴリー	No	科目・研修名	時間数	集合	通信	巡回	実地	科目・研修概要
業務の理解	1	屋内外における通常業務	500			10	500	屋外業務・・・自然体験プログラムを実施するための施設の整備・管理等 屋内業務・・・業務関係書類の整理情報の収集・整理等
		野外救急法及び野外における安全管理	3				3	プログラムの事故や疾病に対応するための野外救急法について、基礎的な理論と技能を学ぶ。
		プログラム・エコツアーの実地研修	110				110	受け入れ先が開催する自然体験プログラムやエコツアーに(補助)スタッフとして同行し、現場での具体的業務を学ぶ。
		プログラム・エコツアーの評価と修正	10				10	実施した自然体験プログラムやエコツアーについて、事後評価及び次回への修正を実務として行う。
技術・知識	2	エコインストラクターの役割	3		3			エコインストラクターがもつ社会的役割や現場や地域における総合的な役割について理解する。
	3	伝える技術	8	5	3			インタープリテーションの基礎的な理論を学習した上で、実際に人に伝える際の具体的な手法や表現方法について実践的に学ぶ。
	4	ホスピタリティの実践	3		3			参加者に満足してもらえるためのノウハウ、心がけについて学ぶ。
	5	体験プログラムの実際	3		3			受け入れ先が開催する自然体験プログラムやエコツアーの構成等について体系的に学ぶ
事業における安全	6	リスクマネジメント	5	2	3			プログラム中に想定されるリスクとその回避策、また起こった事故へ対処するための考え方や具体的手法について、保険の基礎知識とともに学ぶ。
	7	関連法規の基礎	3		3			自然公園法や自然環境保全法旅行業法や道路運送法など、事業を進める上での関連法規について学ぶ。
資源管理	8	自然環境概論	3		3			日本の自然環境の特徴・資源としての可能性について学ぶ
	9	資源管理の考え方と仕組み	3		3			資源管理の考え方と実効性のある仕組み(ガイドラインの設定、モニタリング等)について先進事例を交えて学ぶ。
事業運営	10	観光関連産業の仕組み	3		3			地域における旅行会社や観光協会、運輸業界、宿泊・飲食施設、土産販売店などの関係性を学ぶ。
	11	旅行会社業務の理解	5	2	3			旅行会社の業務(商品作成・販売等)について、総合的に理解する。
	12	観光協会業務の理解	3		3			観光協会の仕事や地域における役割を学ぶ。
	13	農山漁村における体験型観光	3		3			事例をもとに、農山漁村における資源を活用しながら体験型観光を推進する仕組みを学ぶ。
	14	地域プロデュースの方法	4	1	3			地域の魅力を掘り起こし、活力ある地域づくりに活かすための基礎的方法を学ぶ。
	15	事業企画・運営の実際	3		3			事業運営計画の作成や活動の場の組織づくり等、事業の継続的運営の基礎となるノウハウを学ぶ。
	16	広報活動の基礎	3		3		消費者に対し効果的にPRするための広報活動について、その理論と具体的方法について学ぶ	
活動理念	18	エコツーリズム概論・自然体験活動概	5	2	3		エコツーリズム及び自然体験活動の基本概念や効果あるべき姿について、国内外での発展の歴史や各地の具体事例等を通じて幅広く学ぶ。	
						623	研修の時間算出方法...1日8時間×週5日×18週=計720時間(目安) 通信教育は各科目3時間換算	
時間数合計			698	14	51	10	623	

質問
誰から学ぶことができましたか？

自然学校やエコツアー分野の第一線で活躍している事業者や各界の専門家が集結。みなさんの研修をバックアップしました。カリキュラム内容はすべて、専門家・有識者の協議により「即戦力として通用する知識や技術を学ぶために不可欠」として編成されたものです。ついていけるだろうかと不安になる人もいたかもしれませんが、もし研修中に悩みや不安が生じた場合でも、全国事務局本部の研修担当者が常時相談にのりましたので、安心して研修期間を過ごすことができました。

全国ネットを活かした実地研修受入組織（平成 21 年度）

- 黒松内ぶなの森自然学校（ねおす）【北海道】
- 岩手こども環境研究所【岩手県】
- かみえちご山里ファン倶楽部【新潟県】
- くりこま高原自然学校【宮城県】
- あぶくまエヌエスネット【福島県】
- トヨタ白川郷自然学校【岐阜県】
- グリーンウッド自然体験教育センター【長野県】
- 国際自然大学校【栃木県・山梨県・東京都】
- キープ協会【山梨県】
- 千葉自然学校【千葉県】
- 自然教育研究センター【東京都】
- 木風舎【東京都】
- ホールアース自然学校【静岡県】
- 富士山山自然体験活動推進協議会【静岡県】
- ひろしま自然学校【広島県】
- 大杉谷自然学校【三重県】
- 高知県西部 NPO ネットワーク【高知県】
・海癒 ・黒潮実感センター ・四万十楽舎
- 野外教育研究所 IOE【熊本県】
- がじゅまる自然学校【沖縄県】
- 沖縄体験ニライカナイ【沖縄県】
- やんばる自然塾【沖縄県】
- なきじん海辺の自然学校【沖縄県】
- よみたん自然学校【沖縄県】



質問 どのように申し込みしたのですか？ (平成 21 年度実施内容)

応募について

願書及び作文をご提出していただきました。

※全国事務局が仲介し、応募の前に、実地研修受入組織へ研修内容について確認するようお勧めしました。

審査方法について

審査は提出していただいた作文及び書類にて選考しました。

また選考後、実地研修先も含めた面談を行いました。

面談日は下表の通りです。東京会場と沖縄会場で行いました。

※選考結果は、郵送でお送りしました。

※尚、実地研修受入組織が決定した後、全国事務局の仲介のもと、受講生と受入組織との間で、研修内容に関する契約書を交わしていただきました。

■ 申し込みの際に必要な提出物 (郵送または持参)

平成 21 年 8 月 18 日 (火曜日) 〆切必着

① 願書

HP 上からダウンロードできるようにしました。

② 作文

「研修受講の動機」について 2,000 字以内。
書式は自由としました。

※郵送の場合は当日消印有効ではなく当日必着。

※持参の場合は受付最終日までとしました(土日祝日以外 10 時～17 時)。

※Eメール添付、ファックスは不可としました。



日本環境教育フォーラムのHP
<http://www.jeef.or.jp/ecoins/index.html>

■ 面談日

東京会場：平成 21 年 9 月 1 日 (火曜日)

沖縄会場：平成 21 年 9 月 5 日 (土曜日)

※面談会場、時間等の詳細については書類選考後にお伝えいたしました。

エコインストラクター募集要項（平成21年度実施内容）

本事業は平成21年度をもって終了しました。

応募要件：以下の全ての要件を満たすこと

- ①集合研修開始時点で、20歳以上の男女
- ②将来、自然学校インストラクターやエコツアーガイド、地域における関係産業に就労する意志があること
(受講のみを目的とする場合はお断りしました)
- ③集合研修および実地研修に参加し、所定の研修項目を受講できること
- ④下記日程で行われるいずれかの面談に参加できること
平成21年9月1日（東京） / 平成21年9月5日（沖縄）

審査方法：書類選考（願書・作文）

※選考後、実地研修受入組織担当者との面談を経て研修先を決定いたします。

※態度・能力が著しく研修基準に満たない場合で、指導による改善及び本人の意志に改善が見られないとき、受入組織及び全国事務局の判断により、研修期間中であっても、途中で研修終了とさせていただく場合があります。ご了承ください。

研修期間：集合研修 平成21年9月15日～平成21年9月17日（東京）
平成21年9月27日～平成21年9月29日（沖縄）
※いずれかを受講

実地研修 平成21年10月1日～平成22年2月28日

費用：講義に関するものは無料です。但し、研修参加に係る以下の経費は、参加者の自己負担となります。

- ①集合研修の宿泊費・食費
- ②実地研修中の生活費（宿泊費・食費等）※実地研修受入組織により異なります。
- ③交通費
- ④研修中の傷害保険料
- ⑤その他、実地研修受入組織により必要とされるもの

待遇等：実地研修中の休日・就業時間等の諸規定については、受入組織の規定に準じて設定されます。研修中のインターンシップに対して、報酬が支払われることはありません。

研修内容：本研修は、基本的に全国共通カリキュラムに則り、以下の4本柱で行われます。

実際の実地研修は、各受入組織の活動内容等により異なります。

- ①集合研修
- ②通信教育
- ③実地研修
- ④巡回指導

修了要件：①集合研修、実地研修のそれぞれの時間数のうち、7割以上の参加

- ②中間試験、修了試験の得点が6割以上の成績
- ③通信教育のレポート提出（合計5回の全て）と、評価得点が6割以上の成績
- ④実地研修に対する評価得点が6割以上の成績
- ⑤その他、全国事務局が認めた場合

※②～④について、成績が記載された基準に満たない場合でも、全国事務局・講師等によるフォローアップにより、同等の知識・技術を身につけたと評価される場合には、修了要件を満たしているとみなします。

申込方法：願書及び作文を下記期限までに、エコインストラクター全国事務局まで郵送または持参してください（当日必着）。

平成21年8月18日（火曜日）必着

※持参の場合は受付最終日までとします（土日祝日以外10時～17時）。

※Eメール添付、ファックスは不可とします。

◆作文テーマ「研修受講の動機」2,000字以内（書式自由）

【エコインストラクター全国事務局】

〒160-0022

東京都新宿区新宿5-10-15 ツインズ新宿ビル4階

社団法人日本環境教育フォーラム 京極（きょうごく）・小堀（こぼり）宛

電話03-3350-6770（代表） E-mail ecoins@jeef.or.jp

質問 面談後、どんなカタチで研修がおこなわれたのですか？

(平成 21 年度実施内容)

エコインストラクター人材育成事業は、受講生が効果的に「技能」、「知識」を体得できるように4つの研修スタイルを取り入れました。
※詳細は次ページ以降を参照

STYLE1 集合研修 (2泊3日・合同)

自学では学習困難な科目について、専門家の直接指導を受けました。
平成 21 年 9 月 15 日～平成 21 年 9 月 17 日 (東京、新宿御苑)
平成 21 年 9 月 27 日～平成 21 年 9 月 29 日 (沖縄、那覇市ぶんかテンプス館)

STYLE3 巡回指導

特定の科目について、専門家が巡回し、直接指導を行いました。
受講生には、ブロック毎の巡回指導実施場所に集まって
いただきました (期間中 2 回)。

STYLE2 通信教育

教材等を使用して通信教育を実施し、専門家の添削を受けました。
全受講生共通のテキストで、自分のペースで学習できました。
(研修期間中、5 回)

STYLE4 実地研修

全国の入組組織での業務を通じた実地研修を約 5 ヶ月間行いました。
実際の現場の中で、必要なスキルを身につけていきました。



集合研修について

面接後、実地研修に入る前に、各地の受講生が集まり 2 泊 3 日の集合研修が開催されました。この研修では、これから始める実地研修がより充実したものになるよう、必要な知識や考え方など座学を中心とした講義を、各業界の第一線で活躍する講師陣がレクチャーしました。 ※東京と沖縄ではカリキュラムの内容が一部異なります。

	1 日目	2 日目	3 日目
【スケジュール予定】	10:00 開講式 受講生自己紹介等	9:00 SS3: 地域プロデュースの方法	10:00 SS6: ホスピタリティ論
	10:45 SS1: エコツーリズム概論・ 自然体験活動概論	10:40 SS4: 伝える技術 ～理論編・実践編～	13:00 SS7: 社会企業論
	13:00 SS2: 旅行業の現状と 着地型観光	13:00 SS5: リスクマネジメントと 保険	14:30 研修のふりかえり 今後の実地研修に向けて
	16:00 終了	16:00 終了	15:30 終了



実地研修について

右図は 1 週間の研修スケジュール例です。実地研修受入組織の指示のもと業務を行いながら、カリキュラムに盛り込まれた研修内容を進めていきました。受講生が通信教材で学習し、自ら行う研修もありますが、分からない点は、全国事務局の担当者や受入組織の担当者に意見やアドバイスを求めることもできます。尚、休日や勤務時間等については、受入組織の規定に準じて設定されます。

～研修中の保険について～

研修実施中の怪我・疾病に備え、傷害保険に加入していただきました。万が一の場合は、下記保険の範囲内で補償を受けることができます。保険加入に関する手続きについては、全国事務局が一括して行いました。なお、損害保険料 10,000 円程度各自で負担していただきました。

【補償額】

死亡・後遺障害 1,000 万円 入院日額 5,000 円 通院日額 3,000 円
個人賠償特約 2,000 万円 救援者 500 万円

【イメージ】

曜日	午前	午後	夜
月曜日	● 施設整備（焚き火場作り）		● 通信教材にて自習
火曜日	● フィールドの自然調査		● 不明な樹木についてスタッフに確認
水曜日		～ 休み ～	
木曜日	● イベントのパンフレット製作		● 旅行者との打ち合わせに同行
金曜日	● 事務業務（書類整理）	● 施設内の清掃作業	
土曜日	● 施設整備（作業場の階段づくり）		● 施設整備（作業場の階段づくり）
日曜日	● エコツアープログラムに同行・補助		● 後片付け、反省会

Pick Up 写真で見る実地研修(イメージ)



自然調査

調査しながら、身近な草花のデータベースを作成。地道な作業がプログラムに生きる。



プログラム補助

プログラム現場に立ち、指導実習を通じた経験を積むことで、資質を向上させる。



自然の案内

地域の自然について学び、参加者に伝えることを通じて、エコツアーガイドの役割を学ぶ。



打ち合わせ業務

旅行会社や学校団体などの下見・打合せに同行することで、準備段階の業務を学ぶ。



事務作業

現場でのプログラム実施は、予約・手配等の事務局運営に支えられている。事務所内における業務を通じて、運営基礎を学ぶ。



施設整備

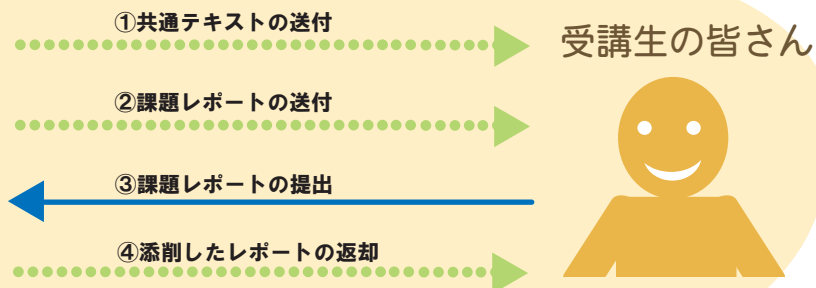
キャンプ場や牧場などは自然学校インストラクターにとっての仕事場の一つ。自らの手で施設整備や動物の世話をすることの大切さを学ぶ。

5、通信教育について

実地研修の期間中、最新の情報を盛り込んだテキストをもとに知識の習得に努めていただきました。受講生の皆さんはそれらを読み込んだ上で課題レポートを提出しました（テキストのテーマについてはP3を参照）。全国事務局

はテキストの内容をきちんと理解できているか、レポートをチェックし、コメントを加えて、受講生の皆さんに返却しました。

全国事務局
■巡回指導の実施
講師が全国の拠点を巡り専門科目に関する講義を行います。



- ①「共通テキスト」を受講生に送付。「学習スケジュール」等も同封。
- ②郵便またはメールにて、レポートの課題を受講生に送付。
- ③科目毎に指定されている提出期日に沿って、課題を提出。
分からない点は、受講生が全国事務局通信教育担当者に相談。
- ④専門家が添削し、郵便またはメールで受講生に返信。

6、巡回指導について

実地研修の期間中に、特定の科目について、専門家が巡回し、直接指導を行いました。各界のエキスパートである講師陣に、質問や相談ができる絶好の機会です。受講生には、ブロック毎の巡回指導実施場所に集まっていただきました（期間中2回）。



第一線で活躍する講師による研修



将来に関することや、現状の課題をじっくりカウンセリング

■巡回指導研修内容（一例）

- ・エコインストラクターの意義、役割
- ・インタープリテーション論
- ・成功事例から見る地域プロデュースの方法
- ・起業化を考える
- ・将来の目標の設定
- ・目標を達成するための計画（アクションプラン作り）

※各地区の受講生の要望、状況等を勘案し、研修内容を決定。

※研修後（場合によっては研修前）、講師と受講生が向き合い進路等についてのカウンセリングを行う。

研修に関する詳細事項

【応募要件】

1. 応募要件について

◆対象年齢は20歳（集合研修開始時点）以上としました。

研修内容に社会的責任を伴うものが含まれているため、20歳以上に設定しました。

◆「応募要件」を満たしていない方は、原則として応募を受け付けませんでした。

集合研修（東京又は沖縄）への参加や、面談参加も必須要件となっていました。

【審査】

2. 書類審査について

◆書類審査は全国事務局が実施しました。応募要件を満たしていることを確認するとともに、本研修を受講する動機等を確認しました。

応募書類選考の結果、応募要件を満たしていなかったり、受講生としてふさわしくないと判断された場合は、全国事務局よりその旨通知しました。

3. 面談について

◆第一希望の現地研修受入組織との面談で、受入れが認められなかった場合は、全国事務局による調整のもと、第二希望、第三希望もしくはその他の受入組織への受入れをお願いすることもありました。

面談は東京・沖縄の両会場で実施しましたが、応募願書で「第一希望」に挙げていただいた受入組織が参加する会場にお越しいただきました。

【費用】

4. 研修参加に係る経費について

◆現地研修受入組織の都合により、受講生が負担する生活費等は異なりました。

現地研修受入組織での生活費（食事・宿泊）等は現地研修受入組織の状況によって異なりました（例：社宅の有無等）。どの程度の経費がかかるかについては、全国事務局が情報を集約いたしました。

【研修内容】

5. 集合研修について

- ◆原則として全日程の参加を求めました。



ただし、やむを得ない事情により休講しても、受講の全時間数の7割以上の出席が確認されれば要件を満たしたものとしました（無断休講は認められません）。

6. 通信教育レポートについて

- ◆全5回、全てのレポートを提出することが修了要件のひとつとなっていました。
- ◆レポートごとに定められた提出期限は厳守していただきました。期限後の提出は減点の対象となりました。



各レポートは全国事務局で添削し、6割以上の得点で合格としました。6割に満たない場合は全国事務局でフォローアップしました。

7. 実地研修について

- ◆原則として、実地研修は期間を通して参加していただきました。



受入組織が設定した研修スケジュールに沿って、受講していただきました。やむを得ない事情により欠席する場合でも7割以上の参加を修了要件としました。

8. 中間・修了試験について

- ◆原則として実地研修受入組織を会場にして実施しました。
- ◆試験は受講生のランク付けを行うものとはしませんでした。



6割以上の得点で合格としました。試験監督は実地研修受入組織のスタッフが行いました。

当該研修の知識の習得度を見極め、追加の研修や課題等のフォローアップを行うために実施しました。

9. 巡回指導について

- ◆全国ブロックごとに2回実施される専門家の巡回指導には必ず参加していただきました。



専門家による巡回指導では、研修カリキュラムに関する講義のほか、日常生活のカウンセリングや就業支援なども実施しました。

10. 評価について

- ◆共通の評価表に基づき、評価しました。



受講生の評価は、各レポート、実地研修、中間・修了試験において実施しました。それぞれ全国共通の評価表が設けられており、全国事務局が評価しました。評価について不明な点等が発生した場合は、全国事務局で対応しました。

◆評価は公表しませんでした。



評価は研修の知識の習得度を確かめるものとししました。追加の研修や課題が必要かどうか、もしくは所定の目的に達したかどうかを見るものです。よって受講生全体のランク付けを行うためのものではありません。
原則として評価は公表しませんでした。もし就業希望先等からの要請があった場合には、一定のガイドラインを作成して対応することを想定していました。

1 1. 実地研修受入組織の途中変更について

◆研修期間中に実地研修受入組織を変更することは、原則として認めませんでした。



ただし、やむを得ない事情がある場合には全国事務局にて検討し、対応しました。

【修了要件】

1 2. 修了要件に満たなかった場合について

◆成績の状況によって留年という措置は行いませんでした。
態度・能力等が著しく基準に満たない場合を除き、全国事務局がフォローアップしました。



本用件の場合は実地研修受入組織、検討委員会、環境省担当官と協議を行い対応しました。

【生活】

1 3. 研修中の生活について

◆日常生活の移動手段は受講生で準備することとしました。



日常生活に係る部分（日用品・食材の買出し等）の移動交通には、受講生が自ら（自家用車か自転車、徒歩等）用意することを前提としました。
研修内の移動交通（フィールドまでの往復等）は、実地研修受入組織によって条件が異なりました。

◆自宅からの通い研修も認められました。



カリキュラム内容・時間数を満たしている限り、自宅からの通い研修も可能としました。

【受講不合格、中途での失格】

1 4. 受講不合格および、中途での失格について

◆受講希望者は①応募書類による選考、②実地研修受入組織による研修中の評価、の2段階で審査があり、要件に満たない場合、もしくは不適格とみなされた場合には研修途中にあっても研修打ち切りとすることにしました。



不合格についてはすみやかに書面で通知することとしました。
研修途中での研修打ち切りについては、実地研修受入組織と全国事務局等で慎重に協議をし、受講生と面接を行い決定することとしました。

(例) 学習意欲がないものや、社会常識に欠けている行動をとり、実地研修受入組織に対し、迷惑をかけている場合等。

【研修修了後】

1 5. 修了後の肩書きについて

◆「エコインストラクター」は公的な資格ではありません。



「エコインストラクター」は公的な資格ではありません。
ただし、平成19～21年度の修了生については、履歴書等に「環境省エコインストラクター人材育成事業修了」と記入することはできることとしました。

1 6. 就職支援について

◆求人情報の提供等を通じて、就業支援を実施しました。



全国事務局では、メールによる求人情報の提供など、研修修了者への就職支援を実施しました。

◆研修修了は実地研修受入組織等での就職を保証するものではありません。



実地研修受入組織での就職を希望する場合は、当該団体の採用担当者に直接相談していただきました。